

## 日本遺産 / 仏教美術と三十三観音巡り

人吉球磨地方には数々の信仰が根づいており、この地域の文化遺産の一部として保持されています。700 年近くにわたり人吉・球磨を納めた相良家は、地域に安定をもたらし、一部には奈良（710-794 年）・平安（794-1185 年）時代にも遡る神社仏閣、仏教にまつわる芸術品など、非常に多くの文化遺産を保全する強力な文化を育みました。

相良家はもともと現在の静岡県出身で、将軍・源実朝（1192-1219 年）に任ぜられて人吉を治めるようになりました。前近代の日本では、藩主がまったく新しい価値観と信仰を押しつけることが一般的でしたが、相良家は、この地方の既存の文化を保護・保存しました。この地域では、文化を保護する強力な伝統が発展しました。この伝統の証拠となるのは、文化財の量と質であり、「相良三十三観音めぐり」といった地域社会の伝統です。

三十三観音巡りは、春には春分の日、そして秋には秋分の日を含む 7 日間にわたって行われます。観音様が祀られている場所は実際には 35 箇所ありますが、複数の箇所に同じ番号が用いられて場所もあることから、番号は 1~33 番になっています。観音巡りの場所には、境内にある拝殿や、田んぼ沿いや林の中にある小さなお堂などがあり、その多くは地元の人々が管理しています。相良三十三観音めぐりの期間中、地域社会の人々は、近隣の人や訪れる参拝者と飲食物を分かち合い、祝いムードになります。